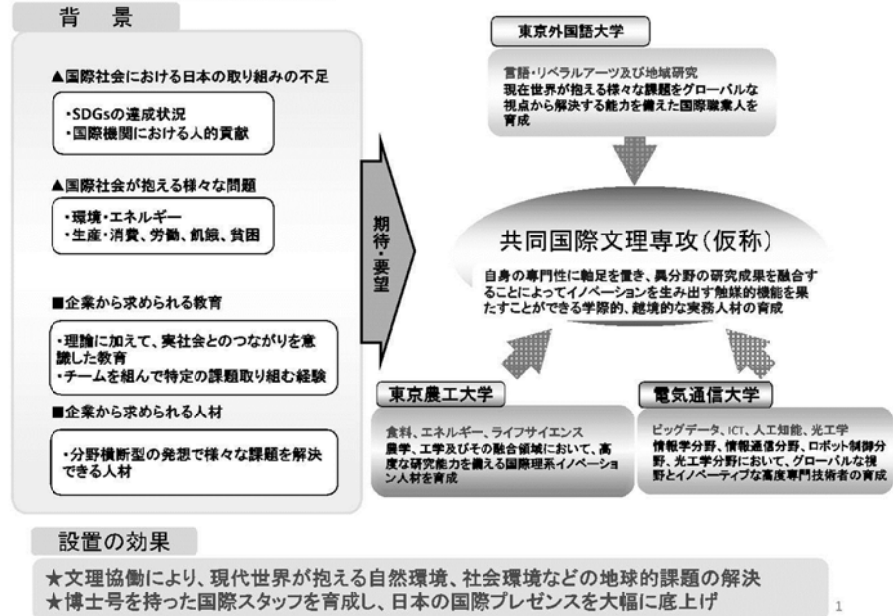
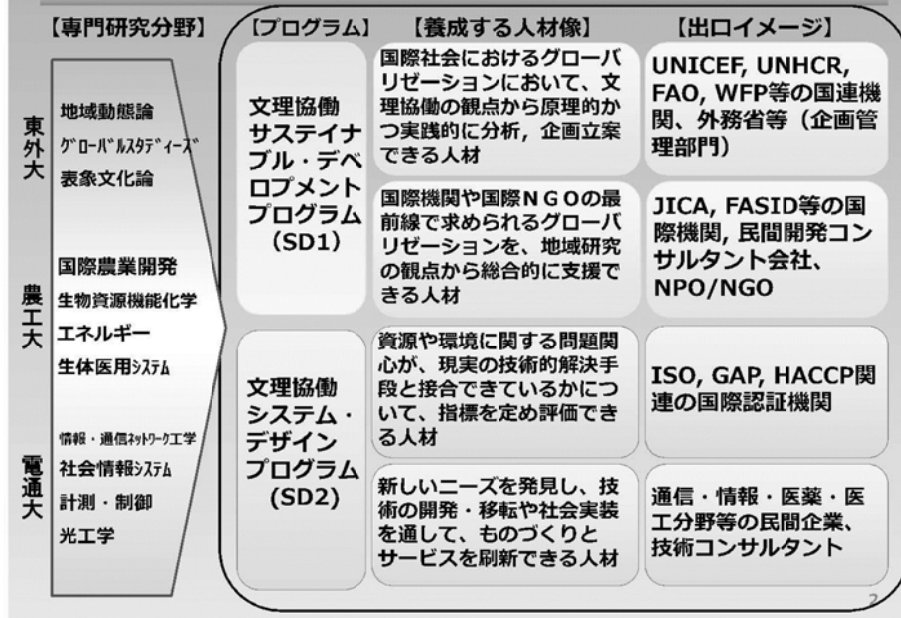


## 共同国際文理専攻（仮称）の設置の趣旨及び必要性



## 共同国際文理専攻（仮称）における養成する人材像



## 共同国際文理専攻（仮称）の教育スキームの特色

- ・国際社会で活躍できる公益性・実践性志向の卓越した能力の育成
- ・エビデンスに基づいて自らの研究をコンテキスト化する能力の育成  
(社会実装化や国際標準ルール構築に向けた、国際センスの涵養と専門研究の遂行力の習得)
- ・(トリプレット) 文理協働型のケーススタディとファシリテーションを基盤とした実践的能力の育成

アンダーラインの用語については末尾の注釈をご参照ください。  
(次ページ以降も同様です。)

3

### 養成する人材 (≡ディプロマ・ポリシー)

高度な専門性を基盤に、秀でた論理的思考力とコミュニケーション能力をもって、複眼的視点から現代社会の情勢を的確に理解し、分野横断型の発想により、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康などの人類が克服すべき課題の解決に向けて、次世代の戦略やシステムを立案・設計でき、かつ国際チームを牽引・運営できる人材

### カリキュラムの目標 (≡カリキュラム・ポリシー)

- ・ 1) 普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際的センス、2) 国際通用性のある実践的理論・スキル、3) 国際通用性のある論理的思考力とコミュニケーション能力、4) 高度な専門性 (コア・コンピテンシー)、を身につける。
- ・ カリキュラムは、共通基盤科目、文理協働セミナー/ラボワーク科目、実践実習科目の3科目区分から構成される。各科目区分の到達目標は以下のとおりである。
  - 【共通基盤科目】 講義/演習を通じて、ケーススタディ、PBL型ワークショップ、ファシリテーションを活用し、1)～3)の基本能力を身につける(詳細は次スライド)。
  - 【文理協働セミナー/ラボワーク科目】 主指導教員研究室のセミナー、ラボワークでは、博士論文研究を通じて4)を身につける。副指導教員の研究室では、自身の専門と異なる分野研究者との密度の濃い交流を通じて、応用力を高め、1)～3)の能力を磨く。特に、分野横断型の発想力、適応力、合意形成スキル等を向上させる。
  - 【実践実習科目】 文理協働コロキウムや国内外でのインターンシップ等、より多様性、実践性に富む実習を通じて、実社会に通用する、1)～4)の能力を高める。特に、専門性の応用力、エビデンスに基づいた論理性のあるコンテキスト化、分野横断型の発想力、調整力、コミュニケーション能力などの実践的能力を身につける。

4

## 修了要件、共通基盤科目の概要

### ○ 修了要件

科目群	修了に必要な単位数
共通基盤科目	6単位以上
文理協働セミナー／ ラボワーク科目	主専攻科目 副専攻科目 2単位以上
実践実習科目	6単位
計	20単位以上

### ○ 共通基盤科目の概要

- 1) 普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際センス：現代グローバル化社会の本質や課題等に加え、SDGsやレジリエンスなどを含む国際通用性のある多面的文化理論およびEPA、生物多様性条約、ISO、GAP、GMPなどの国際標準ルールに関する知識を深め、国際的センスを涵養する。
- 2) 国際通用性のある実践的理論・スキル：社会数理（統計学、経済学など）、生命科学、システム工学の基礎理論ならびにライフサイクル・アセスメント、ロジックモデル、バリューチェーンマッピング、アウトサイドインアプローチ、標準化、リスク分析（評価・管理・コミュニケーション）、費用便益分析などの実践的分析手法を習得する。
- 3) 国際通用性のある論理的思考力とコミュニケーション能力：プロポーザル・ライティング（英語）、ディベート、ファシリテーションなどを通じて論理的思考力・表現力を高めるとともに、特定課題または特定地域を題材にしたケーススタディやPBL型ワークショップの実践的協働学習を通じて基盤知識・スキルの応用力を磨き、エビデンスに基づく論理性をもつコンテクスト化の手法を学び、国際通用性のあるコミュニケーション能力を醸成する。

5

## 共同国際文理専攻（仮称）カリキュラム

区分	科目名	開講	必修 選択	単位 数	1年次		2年次		3年次		主な到達目標	授業形態ほか
					前	後	前	後	前	後		
共通基盤科目	特別講義Ⅰ	共同	選	1	*						普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際センスの涵養	専任・外部講師によるオムニバス講義
	特別講義Ⅱ	共同	選	1	*						国際通用性のある実践的な基礎理論・スキルの習得	専任・外部講師によるオムニバス講義
	特別演習Ⅰ	共同	必	2	*						エビデンス・ベースの問題発見・解決能力の醸成による、国際センスの涵養	ケーススタディ、PBL型ワークショップ主体
	特別演習Ⅱ	共同	必	2	*						基礎理論および分析手法の応用力の向上による、実践的理論・スキルの習得	ケーススタディ、PBL型ワークショップ主体
	国際文理協働特別演習Ⅰ	共同	選	1		*					論理的思考力の醸成による、コミュニケーション能力の向上	異分野交流ディベート・ファシリテーション主体
	国際文理協働特別演習Ⅱ	共同	選	1		*					論理的表現力の習得による、コミュニケーション能力の向上	プロポーザル・ライティング（英語）主体
文理協働セミナー／ ラボワーク科目	分野セミナーⅠ～Ⅵ（地域動向論）	東外大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*	主指導教員研究室のセミナー、ラボワーク（6セメスター：I～VI、6単位）では、博士論文研究を通じて自身の専門性（コア・コンピテンシー）を高める。副指導教員の研究室のセミナー、ラボワーク（2セメスター以上：Ⅶ～Ⅷ、2単位以上）では自身の専門と異なる分野研究者との密度の高い交流を通じて、応用力を高め、普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際的センス、国際通用性のある実践的理論・スキル、国際通用性のあるコミュニケーション能力の能力を醸成。	トリプレット体制（主指導教員1名、副指導教員2名、教員3名は異なる大学の所属を原則）によるセミナー・ラボワーク
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（グローバル・ビジネス）	東外大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（東洋文化論）	東外大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（国際農業開発）	農工大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（生物資源環境化学）	農工大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（エネルギー）	農工大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（生命医薬システム）	農工大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（社会情報システム）	電通大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（情報・通商・ITシステム）	電通大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
	分野セミナーⅠ～Ⅵ（経済・制御）	電通大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*		
分野セミナーⅠ～Ⅵ（光工学）	電通大	必/選	6/1	*	*	*	*	*	*			
実践実習科目	国際文理協働先端演習Ⅰ	共同	必	2	*	*					実社会に活用する、普遍的かつ実践的知識を基盤とする国際的センス、国際通用性のある実践的理論・スキル、国際通用性のあるコミュニケーションの実践的能力を身につける。	論文中間審査を含めた公開報告と対面文理協働ワークショップ
	国際文理協働先端演習Ⅱ	共同	必	2			*	*				国内外機関・企業でのインターンシップ
	学外実践実習	共同	必	2	*	*	*	*				

6

### 用語解説

1. ライフサイクル・アセスメント・・・製品やサービス（役務）のライフサイクル（資源採取から廃棄・リサイクルまで）全体における環境負荷の定量的評価
2. バリューチェーンマッピング・・・企業において、影響の評価と優先課題を決定するための出発点として、供給拠点・調達物流から生産・事業を経て製品の販売・使用・廃棄に至るまでを図式化し分析すること。
3. コア・コンピテンシー・・・中核的能力
4. アウトサイドインアプローチ・・・世界的な視点から、何が必要か外部から検討し、それに基づいて目標を設定することで、企業が現状の達成度と求められる達成度のギャップを埋めていくこと。
5. ファシリテーション・・・合意形成を促進すること。
6. コンテキスト化・・・論脈化。論旨一貫した文脈を構成できること。
7. ロジックモデル・・・ある施策がその目的を達成するに至るまでの流れの論理的な因果関係を明示したもの。  
(出典：主にSDG Compassより)